

### 授業概要

この授業は、保育の質を健康教育学の観点から考究するものです。入学後からの履修内容（健康Ⅰと幼児体育Ⅰ・Ⅱ、保健、教育、心理、5領域Ⅰ）をベースに、胎児期から学齢期にかけての子どもの育ちの概論や健康教育学の諸問題を様々な角度から眺め、援助の心もちについて検討を加えてゆきます。

近年の医学・公衆衛生学においては、健康教育と共に社会生態学的側面を重視した健康環境支援の構築にも注力するライフコースアプローチが採り入れられており、ここでは、胎児期からの一次予防の重要性が強調されています。加えて今後は、早期からのメンタルヘルスへの対応も求められるようになります。しかし、現実的には動機づけが難しく、具体的な健康行動及び健康支援に繋がっていない現状があります。この授業では、子どもの育ちに関する学術的価値の高い論文（所謂エビデンス）や論説（小児科医、教育者、援助者、研究者）、直近の幼児健康調査の結果と分析、等を提示し、以って皆さんの将来の仕事に対する覚悟と矜持を高める、そんな感じで進めます。そして最終的には、皆さんは一次予防の枢要な担い手だ、ということが伝われば幸いです。今年度は、学校教諭に就く人への配慮として、がん教育について説明します。

### 授業計画

第1回	総説
第2回	日本の小児医療・保健環境、学校保健への円滑な接続
第3回	現代社会と子どもの健康（健康のとらえ方、影響要因、健康生成論）
第4回	現代社会と子どもの健康（健康課題の時代推移、健康Ⅰと幼児体育Ⅰ・Ⅱの重要性）
第5回	心を育む（胎児の自発性、赤ちゃんの探索活動、認知）
第6回	心を育む（情動と気質、情緒の発達、情緒と社会性の関連）
第7回	心を衛る（精神疾患の現状と傾向、傾聴と共感、家庭への対応）
第8回	心を衛る（非日常時の対応 - 医師、心理専門職、養護教諭と共にできること - ）
第9回	遊びの理解（遊びの意義と性格、遊びの発達、見守る側の心もち）
第10回	遊びの理解（認知・非認知的能力とライフスキルの関連）
第11回	<u>アクティブラーニング</u> ：第10回までの内容に基づき、レポート作成や議論を実施。受講人数によって実施形態は変動。
第12回	子どもへのがん教育（「先生、がんって何？」と聞かれたら、予防・検診、命の重み）
第13回	生活習慣の獲得過程と援助（特に、安心・安全教育について）
第14回	食育（共食と心の健康、朝食・農業林業体験、子育て・子育て支援を地域みんなで）
第15回	改訂のねらい（幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）
第16回	試験

### 到達目標

下記の理解を深めること。

- ・まずは表情豊かに子どもの心を受けとめること、そして、吟味された遊びの環境を用意すること。これらのことが、子どもの身体的、精神的、社会的な健康を育む上での土台となる。
- ・幼児期のスキル形成はその後の人的資本形成の基礎をつくる。学びは更なる学びへとつながる。幼児期への投資は重要である。（2点目は Heckman and Masterov, 2007. より。）

### 履修上の注意

特にありません。

### 予習・復習

到達目標を念頭に参加（メモ、思考、議論）し、実践に生かすこと。予習は必要ありません。

### 評価方法

受講態度（20%）、アクティブラーニング（40%）、学期末試験（40%）

### テキスト

全てこちらで用意します。